

# 調查結果

## I 病院の属性

### (1) 併設施設

病院に併設施設のある病院は20.8%である。

「老人保健施設」併設が226病院(8.8%)、「特別養護老人ホーム」併設が110病院(4.3%)、「訪問看護ステーション」併設が79病院(3.1%)、「在宅介護支援センター」併設が67病院(2.6%)である〈複数回答〉〈表1〉。「その他」の併設施設として一番多いのは、「福祉施設(授産施設など)」で「その他」の併設施設の2/3を占めている。

病院の種類別にみると、「老人病院」では、「老人保健施設」「訪問看護ステーション」「特別養護老人ホーム」をもつ病院がやや多い〈統計表第I-1表〉。

表1 併設施設〈複数回答〉

	病院数 (%)
全 体	2,556 (100.0)
老人保健施設	226 ( 8.8)
訪問看護ステーション	79 ( 3.1)
特別養護老人ホーム	110 ( 4.3)
在宅介護支援センター	67 ( 2.6)
そ の 他	197 ( 7.7)

### (2) 稼働していない病床とその理由

稼働していない病床のある病院は、546病院(21.4%)である。

許可病床数が多い病院ほど、稼働していない病床のある病院が多い〈表2〉。

病院の種類別にみると、「大学病院」の40.0%が稼働していない病床を抱えているのが目立つ〈統計表第I-3〉。

稼働していない理由は、「看護職員が採用できないため」279病院(10.9%)、「医師が採用できないため」58病院(2.3%)である〈複数回答〉〈表3〉。

医療従事者を得られないための理由が多い一方で、「患者が少ないため」という理由も74病院(2.9%)ある。「その他」の理由の記載内容の3分の1は、「ベッド間隔を広くするため」というものだった。それ以外には「改築中」「器材室、検査室、面会室、喫煙室、デイルーム等に転用」などがあつた。稼働していない病床があるという同じ現象でもその背景は全く異なっている。

病床規模別にみると、「看護職員が採用できないため」という理由で病床の一部が稼働していない病院は、病床規模の大きい病院に多い〈表3〉。「医師が採用できないため」という理由は病床規模の小さい病院にやや多い。

表2 稼働していない病床のある病院の比率

許可病床数	病院の比率
計	21.4%
20～40床	17.8%
50～99床	18.2%
100～199床	20.6%
200～299床	21.9%
300～499床	22.7%
500～899床	33.6%
900床以上	45.9%

表3 稼働していない病床がある理由〈複数回答〉

稼働していない 病床がある 理由 許可病床数	回答病院数	看護職員が採 用できないた め	医師が採用で きないため	患者が少ない ため	そ の 他	無回答・不明
計	2,556 (100.0)	279 (10.9)	58 (2.3)	74 (2.9)	176 (6.9)	15 (0.6)
20～49床	225 (100.0)	10 (4.4)	5 (2.2)	9 (4.0)	16 (7.1)	2 (0.9)
50～99床	506 (100.0)	40 (7.9)	15 (3.0)	18 (3.6)	28 (5.5)	2 (0.4)
100～199床	831 (100.0)	94 (11.3)	20 (2.4)	21 (2.5)	44 (5.3)	7 (0.8)
200～299床	461 (100.0)	56 (12.1)	10 (2.2)	13 (2.8)	34 (7.4)	2 (0.4)
300～499床	370 (100.0)	46 (12.4)	6 (1.6)	7 (1.9)	31 (8.4)	2 (0.5)
500～899床	122 (100.0)	22 (18.0)	2 (1.6)	6 (4.9)	15 (12.3)	— (—)
900床以上	37 (100.0)	11 (29.7)	— (—)	— (—)	8 (21.6)	— (—)
無回答・不明	4 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)

## Ⅱ 看護関係診療報酬の採用状況等

### 1 「基準看護」の採用

#### (1) 「基準看護」の採用状況

今回調査に回答してきた病院のうち、64.9%の病院が「基準看護」(資料1参照)をとっている。また、3.0%の病院が「入院医療管理料のみ」をとっている。「どちらもとっていない」病院は、31.2%である(表4)。全国保険医療機関における「基準看護」病院の割合が、4割(平成3年7月1日現在「基準看護・給食・寝具設備等の実際」厚生

省保険局医療課編)であることと比較して、「基準看護」病院の割合が高い。今回の調査の回収率は、全体としては29.7%であるが、「基準看護」病院からの回収率は高かったものと推測される。

病院種類別の主な看護料の採用状況は〈表5〉のとおりである。

一般病院について、許可病床数別にみると、病床規模の大きい病院ほど、患者対看護要員数の多い高い類をとる病院が多くなる(表6)。

表4 基準看護等の採用状況

	病院数 (%)
計	2,556 (100.0)
基準看護をとっている*	1,658 (64.9)
入院医療管理料のみをとっている	76 (3.0)
どちらもとっていない	798 (31.2)
無回答・不明	24 (0.9)

\* 入院医療管理料もとっている病院を含む